

TOPICS

江戸時代からあった言葉

若者言葉として、またそうした意識もなく日常使っている割りと新しいと思っている言葉が、意外と古くから使われている。そんな言葉を探してみたら、起源を江戸時代にまで遡ってしまった。

マジ……………はじめの略、真面目・本当

きもい……………現代語とは意味は違うが、狭くて窮屈な、狭くて不快な

ステキ……………程度のはなはだしいさま、並はずれたさま

すばらしい……………ステキ同様程度のはなはだしいさまを言うが、悪い意味でも使われていた

ヘコむ……………気が滅入る

やばい……………元々は盜賊・香具師が使い、一般に広まった。「いやあぶない」が語源とも

むかつく……………癪に障る、腹が立つという意味で、関西で使われていた

ぐるになる……………ぐるは、悪事をたくらむ仲間の意。共謀と書いてぐると読ませることも



また、事故る、愚痴る、パニクる、チンするといった「～る」「～する」を付けて動詞にする造語法も江戸時代からあった。

こんな例がある

じぐる……………地口から。しゃれを言う
ちわる……………痴話から。いちゃつく

しゃじぐる……………車軸を流すから。大雨が降る
ちゃづる……………お茶漬けを食べる

遊び人風情の江戸っ子がちゃづるなんて……いいじゃん

（サイト「日本語どうでしょう？」、他）



「ケ」って何だ

1ヶ月って書くときの「ケ」はカタカナに見えるけどさにあらず。これは、漢字「箇」（「個」の異体字）の竹かんむりの片方をとったもの、また「箇」の代用として用いられた「个」からきたものとも言われる。一種の符号。便宣的に「か」と読む。

「1ヶ月」と書くか、「1か月」と書くかと言えば、公用文書では「1か月」を採用しているので、それに倣うのがいいかもしれない。

言の葉、ひらり

同音異義語・同訓異義語の使い分け、似た言葉で間違いやすい使い方等、校正中これでいいのかともやもやした気持で仕事を進めると後味が悪い。
調べると宙に舞っていた言の葉の意味がひらりと掌に落ちて、すっきりする。

「行く」は、「いく」か「ゆく」か

いずれも標準的に使われており、どちらかが間違いということではない。感じ方では、「いく」が口頭語的でくだけた言い方、「ゆく」が文章語的で改まった言い方といえる。奈良時代の昔からどちらも使われていたらしい。

違いとして、やや文語的な言い方（例「行きすり」「行きつ戻りつ」「行方不明」「行く年くる年」等）は一般的に「ゆく」と読む。

「少しずつ」「少しづつ」

どっちが正しいんだろうね。

歴史的仮名遣いでは「づつ」、それが1946年告示の現代かなづかいで「ずつ」になり「づつ」は間違いとされたが、1986年の改訂現代仮名遣いで「ずつ」を本則、「づつ」も許容となった。だからどっちを使ってもOK。しかし、学校では「づつ」は間違いと教えているらしい。

3月歳時記



1日(日)修二会……………東大寺二月堂にて国家の安泰と万民の豊楽を祈る。12日にお水取り。

3日(火)ひな祭り……………桃の節句。桃の花には、厄払いや魔除け、長寿をもたらす力があるといわれる。

6日(金)啓蟄……………二十四節気の一。蟄（土中で冬ごもりの虫）が、大地を啓（ひら）いて出てくる頃。

7日(土)消防記念日……………1948年消防組織法施行、2年後に記念日を設定。

14日(土)ホワイトデー……………私の初ホワイトデーは、中学2年のとき（1973年）。マシュマロを贈った。

18日(水)彼岸の入り……………春分を挟む1週間が春のう彼岸。

21日(土)春分・春分の日……………二十四節気の一。この日にお墓参りをする習慣は日本独自のもので、仏教はない。

24日(火)彼岸明け……………彼岸の最後の日。

「ぼた餅」と「おはぎ」

同じものだが、漢字で「牡丹餅」「お萩」。小豆の粒を季節の花に見立てた名称。だから、春はぼた餅、秋がおはぎ。小豆の赤色には災い除けのまじないの意味があるのだとか。

竹沢メモ

先日、映画「ミュータントタートルズ」を見に行きました、まあまあ面白かったです！ユニバーサルスタジオジャパンでアトラクションになんでも良いようなスケールでした。（まだ行ったことありません）

最近少し暖かくなってきたね、季節の変わり目は風邪をひきやすいのでうがい手洗いなどをし、体調管理には十分気をつけましょう！